首書
繪入

世界都路

亜細亜州

二

柳田文庫
文庫11
A 1837
2

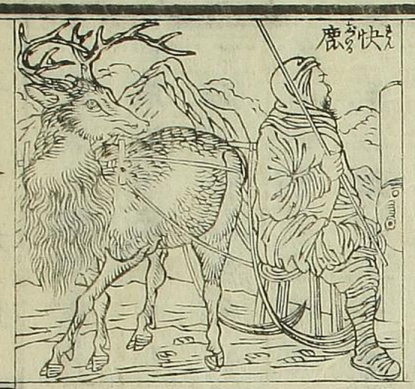
○西比利亜ハ往古蒙古の種属各地ゆ割居を土地の侯伯久しく其領分と侵さるゝ支那元の

亜細亜之續

西比利亜ゟ亜細亜北部を押靡く集め称する總名の境ひ限ゟ悉く曾西亜

文庫11
A/837
2
御田家文庫
48-7739

代ふ至りて太祖の子孫亦の併呑する所とおり二百五十餘年其支配を受たりしゞ百五六十年前より全國魯西亞の領分ふ歸したり其始め魯西亞本部より流罪人を遷す所おりしゝバ魯人



の子孫を間々あり東部の地多く獸類を産し上人「レンジール」と号けし鹿の種類ふて角甚だ大

り屬して大地方を西ふ烏拉の山脈ふ隔てゝ隣る歐羅巴魯の本國を連りて北ふ北氷海ふ至る南

ふ裏海土耳其斯坦蒙古に界し東南ふ滿洲海ふ對し堪察加半嶋ふ至る又ゝ

ひゐるを牧し毳車を牽きの使役をを常とを此府中ゐ魯西亜帝より軍用の為毛織製造の場所を建て金銀の鑄造所をも建う西西比利亜。徳波爾斯科といへる都府ゐい革及び種々の製造

古利諦路より跨りて。墨領峽を過くるなく。亜米利加洲ゐ達して。たる。長さ一千五百余里。南北七百三十里。

所あり

西比利亜東西府

○徳波爾斯科

西部の惣称ゐして府名を同ドくを但し西部中の首府ゐう人口一万二千寺院二拾五

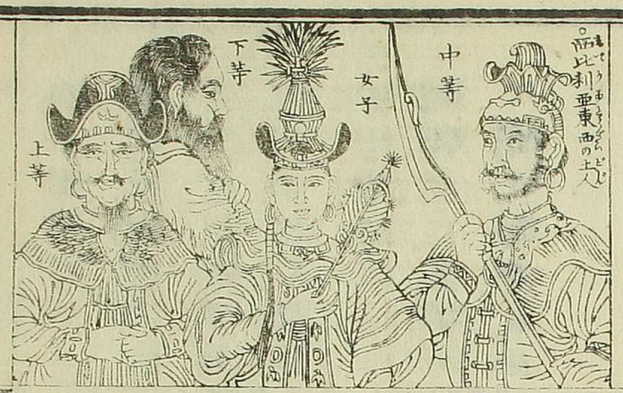
○多木斯科

徳波爾斯科より

面積ゐい九千万。五千六百方里ゐあり。大略支那の傾ゐる。強を考らべ歐ゐの全部よりも大きゐる。尚を此半を亦

義爾古德斯科ハ
達せる中間の都
府にして兵學校あ
り貿易繁盛なり人口
一万三千余人

○義尓古德斯科
此地い東府ハ属
し忽名府名又同
ト東西両部の首
府ハして全国中



家も繁昌の地ハ
り人口一万六千
寺院三十三

屋敷。さまざまの人口
ぞ。二百八十八万餘。
僅に。二百八十八万餘。
全地ハ平均等ハ荒ば。
一里ニ三個を充ル
の。魯人三分の二ハ
ぞ。土人ハ多く漁
ぞ。猟を業とし
て。角長き。羊を牧
し。雪路ハ。犬車を
牽せつて。肉を食

○亜古德斯科
国内貿易第一の場所なり東西両部の中央に在り

○荷哥總斯科
北蝦夷と堪察加の間の海灣に在り

○尼歌拉斯科府
黒龍河ルの口

ひたすらに皮を剥衣に代る者もあり。僻遠地方を変彼延部族を[illegible]く自ら土を穿ちて穴居す。

に近来建たる府にして貿易未繁盛に至らざると虫魯國東海の要地とせ

○彼得羅波爾斯科
堪察加の都府にして東岸にあり魯西亜東海兵備の要地にして

化に遅く愚なる性に野蛮を著せり。地野東と古甫に高峻嶺列りて。その間に豊なる田畑の景最

炮臺屯兵あり

西部の西南裏海（カスピヤン）及び亜拉湖（シー）の近傍は一般に廣漠の原野にして樹木を生ぜず川流も少く耕作をべからざるの地多し之を「キルジス」の沙漠と名づく土人遊牧を

多し。又中央より西北に廣がりて砂原の多里に及ぶ蹄跡限りなきを牧流き鳥泳河

業として各部の酋長之を領し未だ曾西亜政府の支配

蕪麻寨河勃拿の大河を南より北に流れ蕪波ぎ多く山嶺大雪ふ本樵の跡も埋もれ徙く履る

を受ざる者あり其中に或い盗賊を業とし旅人を劫掠し或い句引して之を賣奴とし近隣に鬻ぐ者あり

○印度インド大別して東西二部に分つ又全地を二部に別ちて前印度後印度

に迷て毒虫之に反き
夏の日光暑き烈
しく強雄し東西
區別義爾古德斯
科德波尔斯科とて

と也即ち支那に隣りを東部の海中に突出たる地方を後

却て名れ首府を
衛る兵士を沖津
白波風を防ぐ備
を知まり生籠多
本斯科「亜古德斯科」

印度と号し西部の大陸を前印度又天竺と号く

後印度各国

○安南　全国二万三千五百方里人口六百万
首府フエー　人口五百万

○暹羅　全国三万六千九百四十万里
仝　人口三百余万内十ノ一支那人
首府曼谷　人口四十万

○老撾　全国二万二千万里人口五百万

「尼歌拉駄科」の佛府を部〜東の端小堪「かむ」

「東和」都府い彼得羅波爾科魯國兵備の要地とく。臺塲炮

南部馬剌加英領
首府新嘉坡

○緬甸　内地四万四千百六十方里人口八百万

無怠沢冠小雄象
目もあ布ざる〜
亞細亞の南部印度
地ち前後小別つ英
熱の腴膏濃く注ひ

首府マンダレー

○英領緬甸ビルマ

首府剌郡

○前印度　表面二十三万二千二百方里

人口　一億七千八百六十三万余

全地大略英國の管轄ふして全く其領地と称する者十四万零六百十五方里余あり

五穀を不草本。皆とゝ〻生育ち。産物多き土地ふして。少き世界ふ名も高き。喜馬拉山の脈を負ひ。

前印度の地方い地勢ふ從ひと三箇ふ區別も北部の地方と山地テリトリーと称し其二喜馬拉の山脚より南の方中央の平原と元來の温都斯坦と云ふ其三南部の中間ふ在る高き地面と德

大小江河源を發して幾流を南ふ傍ひく海ふ入る。其数許多ありとや。

二部の一分は後印度

干と名づく

英國の領地ハ州縣を分ちて皆副鎮臺を置て之を支配せしむ其総督い甲谷他府ふ在て許多の議員と倶ふ全国の政務を議定たり

温德斯坦の地方い往時より久しく莫

ふ獨立國の巻れある。

安南ハ一名交趾とて。

支那と近き隣り。

北ハ東京南方を。

「本蒲寨」と号けたり。

卧爾王の所領ふ而て歴代都セ一處かりしが後漸くふ衰へて六十餘年前ふ至り部下分裂し馬刺他の酋長獨立して王と称もより莫卧尔の勢ひ縮まて振いを馬刺他い又近世数々英国と兵

濃ふ孤るまで隣ある。

文華の國ふ交ひ。

朱氏の呂びて道畢。

風俗ハ往古をま

孤ふ滅ぶき官人まて。

を構ひ終ふ敗績を
現今の其版圖大略
英国ふ帰せり国民
又莫卧尔の舊領を
回復きんと名とし
て乱を起せこと数
次ありしが千八百
五十七年土兵大ひ
ふ蜂起して英と戰
ふこと凡二年ふ及

山水を含む風月のおも
めを賦る詩の巧ふよりて
人材を拳る試とふよて
ふ多し。文の林ふ分入つ蛍
を照つめ雪を積扶を

英艦

び故莫卧尔王の都
城聶離府も之が爲
ふ陷りたり
印度諸教

日ふ沈く島の跡学び
の窓ふ他事もなふ。
王城府衛の宮殿伽
藍ふ移ふ造りあり南ふ
沃野つくるまく。蘭滄

○婆羅門教マ宗此教宗釋迦の仏教ハ先ツ千餘年前より盛ハ行はる主神三躰

○第一ブラマ造物主の神

○第二ウィスニユイ回復の神

○第三シツ

大河の枝川ハ沿て昌る繁昌府是佛の東西の屬地ハ大河元流の船泊り堤を抱る港あり又河上の運羅ハ

破滅の邪神此他附屬の神仏数を知らぬ國民空理を信ず彼神仏を崇尊の餘り其身体を痛め或い命を断或い我子を犠牲とし現世未來の冥福を禱る者あり近來英国政府より告令を

渭南河ある口えハ繁都の曼谷港の水元盛原く大海船を抱て

べし。赤道地下の習ひとて岸より水ハ張ぐ

住家居も風の吹ぬき
や人も右肩肌を
脱て裸足も跣足なり
風俗卑く婦女たち
前を結ひて剃髪

出一是等の僧弊を
禁ぜと虫固陋ふ染
りて之を改むること
とを欲せも嘆ぜべ
し

○釋迦佛教
後印度地方及び
支那西藏日本ふ
至り前印度い僧
ふ錫蘭嶋ふ盛ん

後衆安の為ふ初りし。也
地元象印度中弾ふ
稀ふる産ふ。形ち
大きく骨太く備物
の運び難ひ。用ひ

ある而已却て水地ハ行き也

○田教（ブライク教　マホメット宗）人民四種

○第一婆羅門（僧侶）

○第二刹帝利（武家）

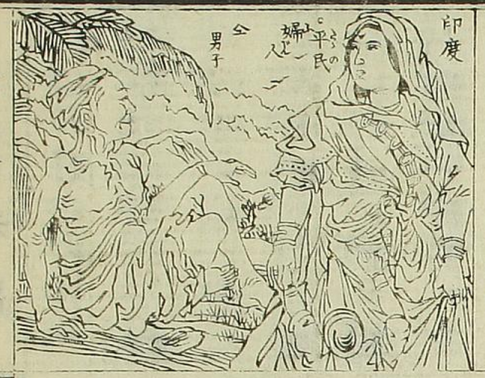
○第三吠舎（良民）

○第四戍達羅（農民）

四種の中一二を貴重し三四を卑賤し

便利多いとぞ。中ハ近世歐洲の教化を受て文明社会に移ク改ル。猶又商ハ乃の境の老拙ハ内地許り

互ひに相嫁娶ことを得ず若此區別を犯す時ハ厳き刑ハ處せらる且貴族ハ



の部落あり主人の首長を家来と分て傾たる其中ハ南部邏羅小の部の緬甸ハ屋敷國民ハ開化り

平人と交るあり
印度人い古より数
々他国の為ふ侵さ
れ其支配を受て服
従ふと虫古來の教
法風俗を固守こと
篤きが故ふ之を變
革せる無きを約し
而る後其管轄ふ歸
せるを常とせ此地

踈き蓋狄體の中ふ
甚里を以飾を使と
者の器ふ栄ふ出る拾うる
て紀源ふ出る南の方ふ
馬刺ふ英吉利領の

上古より人民繁殖
し世界中最も早く
開けし地なり然共
其地数多の邦国を
區別て各自立し兵
力を合して戰ふ能
はざ故ふ統一の大
国を為せしふ非ざ
其後回教の宗徒兵
勢を振ひ西部次第

開拓地海ふ出さし
の角嶋の新嘉坡
の自府にて貿易
要ふ港ふ緬甸と
猛き國柄と四隣ふ

ふ其侵略を被り終ふ德干を畧して国を建て其政令兇暴を極めて戰ひ絶ぞ後又蒙古ふ侵掠き と就中四百七十六年前韃靼地方より帖木兒大兵を率して攻入り首府聶離を陷へと居民十万

振ふ勢ひも英吉利國を拒うきて今い三分の二を保ち保梨屬地河乃傍ふる曼陀禮府のそなわ

を塵殺ふせしと云帖木兒其水都ふ還りし後百余年の間小しく安きを得たるふ復三百四拾七年前帖木兒の親屬

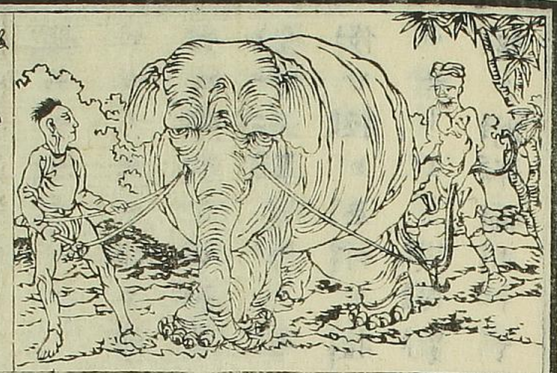
鄙の〻多く風俗ふ。紛く純き心より割き て与へ英領孟加拉灣ふえき傍ひく。阿喇喀「皮木」手形勢

「ペープル王」韃靼地方より起り大兵を將ゐて前印度を攻入り再びデルハイ府を陷し都城を此地に定め終に国内を併呑し其嗣子「ヒユマジコル王」温都斯坦の全地を略し大莫卧尔国を立つ

倫中。小大府の刺郡も。高貴船き港あり。

此海岸小「安陀蔓」「仁古把哥」等の小島あり。

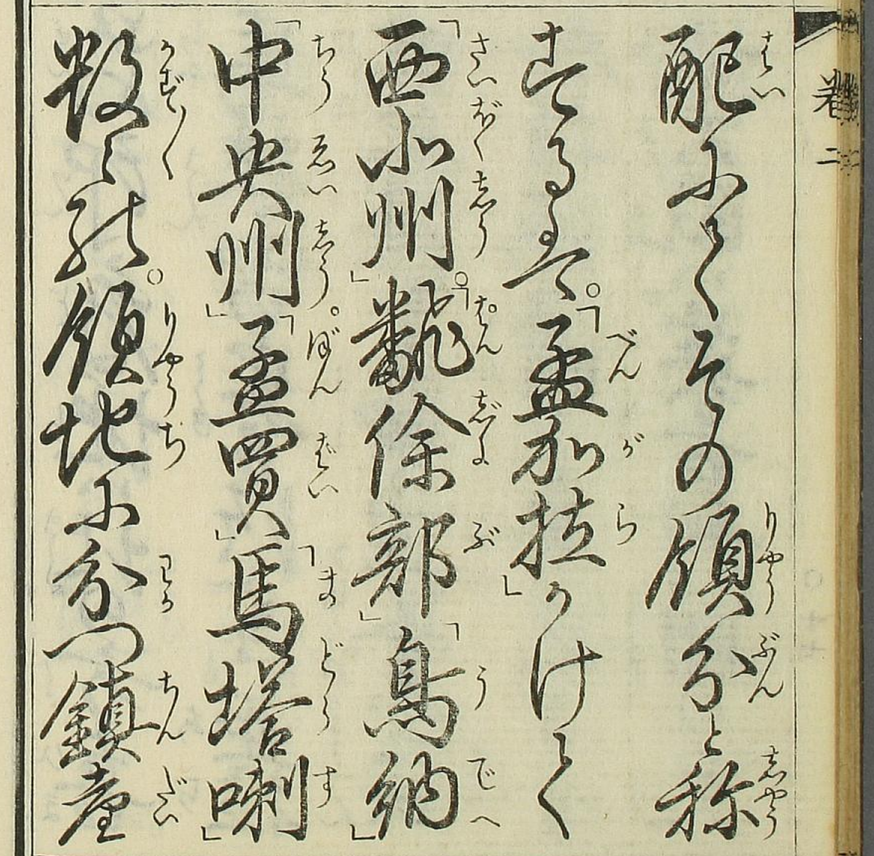
是を限りの境とす。



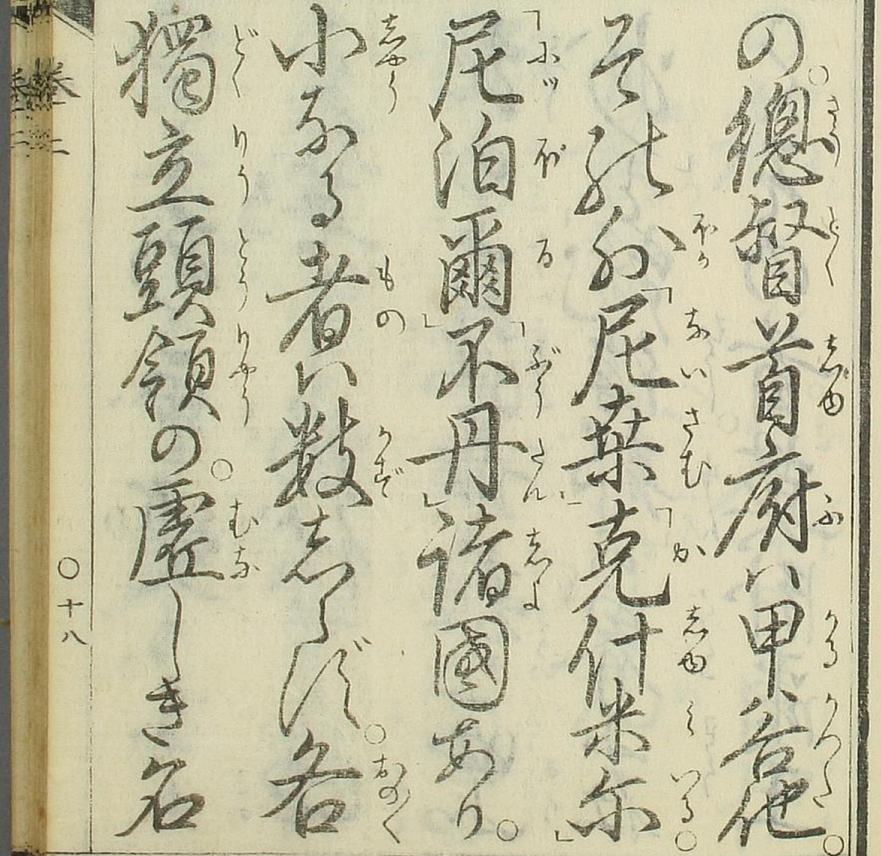
今を去ること二百六十八年前ある其嗣子「大アクバル王」兵力

若印度地の北の方喜馬拉山の麓にあり。西拉比亞海を西に受け東孟加拉海湾と号する全地大略。英吉利國の支

強盛ふして巨大ふ
版圖を擴め次て数
代の国王皆権力を
擅ふも就中「ヲランセップ王」の如き徳
干を併呑し印度の
全部大畧を歸し奢
侈を極め悪行を擅
ふせしより後内亂
起り州郡獨立して



其王政ふ屬を此時
ふ當り比耳西亜の
兵大舉して国内を
掠め十六億六十六
百万弗の貨物を奪
ひ去ると有り首
府デルハイも亦数
々亜加業坦の為ふ
陷らを国勢益衰弱
莫卧尔王助を英国

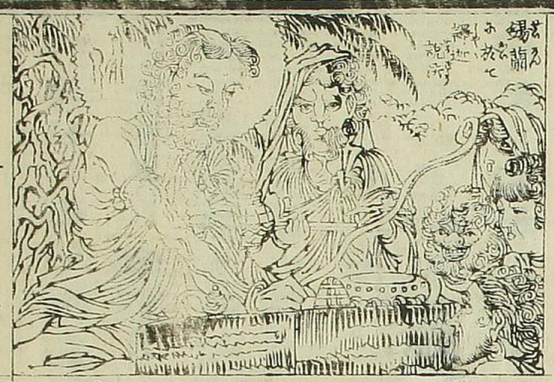


ゐ乞ひて絶ゐ其危難を免れ終ゐ国を英国ゐ委せて其資給を受今ゐ於ていい空しく虚名の王号を称する而已

○比耳西亜又伊蘭と名く地方表面七万五千五百六十方里ゐして人口大凡

のこある甲斐ゐ。あらず英国ゐ隷属せり。也

地の吉弥聶離「西ゐ」ゐ「既俄郎」の界ゐ在くその昔莫尼爾王



千二三百万あり気候い地方ゐ因て大ひゐ異り裡海カスピヤンシー

の都せ。名づき地も最へく。兵火の為て焼失する宮殿及び園亭の墓の印と見あぐれば。雲ゐ聳えて照らす。

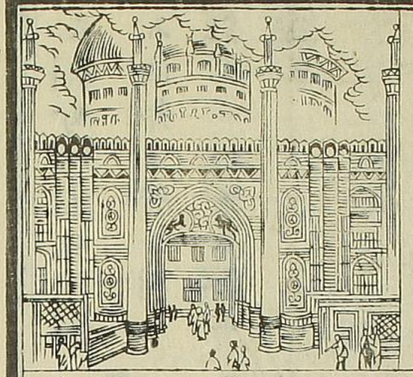
の西南は寒冷ふして中央より南方の地は暑氣堪がたし此地の空気は清浄ふして且乾燥ある故ふ人死て其屍敢て腐敗ことなし産物藥草珠緡帛金銀線の織物等は此国の名産ふして

日暮醫き眠めるまで。
白麻印度地方の物。
浮屠の教を信ぜる教徒多し。
民の信ぜる教徒多し。

又良馬を産もる殊ふ他邦ふ勝り国人多くい騎馬の術ふ長也

国王を尊称して沙と云ふ其下ふ大ビシールと号もる高官あり軍事及び外国交際等の諸務を管領も往時は其版

中ふ刻ふ釋迦牟尼の像を
釋迦牟尼の教を
浮屠の教を
きふ溺せ人心の知覺
を



圖盛大おりしゞ奕世の爭亂ゐ国勢衰へて各地獨立国とおりて其支配ゐ歸せも政令い君主專

此耳社に名高き古蹟あり。印度境こゝ西の方地好南の海まより。一般低く中央より次第に高くなり連りて沙原

治ゐして各州皆国王の親属を以て鎮臺とも然もども其政令公平おらも官吏恣ままゐ私利を營者多し

人種い土人の外都魯機蒙古韃靼亜尓美尼亜及び亜拉比亜人等の子孫ゐし

恙地廣くして人海の如く果しなく夜のこゝも四時ゐ暑の云やまで椰檳榔のそも他も茅茅をぐの流ゐく人の性

て多くい數種を混
ト雖純一おらぢ人
品ハ氣格高く風俗

来も稀なれど小さて
裏海の傍より西部へ
うけて山々の連り亘り
鮮間い草木多くく
豊饒の地柄多く

土耳其ハ似て一般ハ回教を奉ぜ故ハ
一男數婦を娶るを
常とし国民一般ハ
禮式を重んず應對
躰裁を飾ること他
国ハ稀おり然もと
も亦固陋ハ〜を残
忍の風習を脱きぜ
且華美を好を衣服

國民ハ耕さて業に巧ハ
ず九州より分つ王國ハ
威權自恣拘とろく
獨立國も多ありとも首
府等ハ希菜の基城

の如きハ男女共金銀珠玉を鏤め装飾こと甚し殊ハ國王の衣冠ハ至りてハ最も人目を眩耀せり其釧環の如き左右大ひなる金剛石を鏤め其價を算計ハ二百八十四万弗ハ至ると云ふ其

次く田都の義斯巴恒仙泥里由玉の河ゑ奇なる樓への格をけ人家ハ密つて孤。庭園を修造築の

他の修飾准を知るべし

都下の士民ハ氣象温和ハして文學著述を好み且詩學ハ

野民

遠き所ゆゑ絵の巧を盡すあ事ゆゑ近寄て見まゝ皆美事集て見者ハ

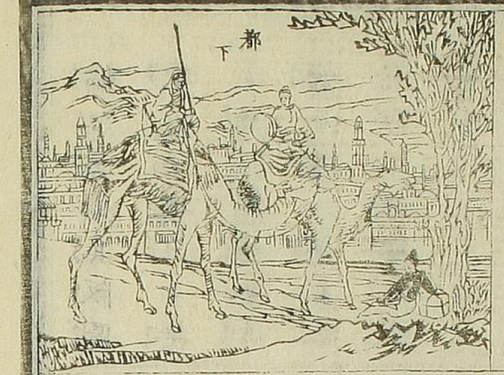
長ずる者多し故に
比耳西亜語い近国
に傳へて之を講習
こと猶佛蘭西語の
歐洲に於るが如し
比耳西亞歷世王
○居魯士王
上候乾庇西の子
全國を統一して
四隣を併せ巴比

代を強盛に
修理を加へぬ衰亡の
繼りい何時の期なむ。
比耳西亞と印度西
境の間に數部の蕃を

倫を滅し其版圖
東は印度河に接
し西い黑海地中
海に濱し猶亞非
利加の北部を蚕
食せ
○大流士王
居魯士王の親屬
なり全国を二十
州とし鎮臺を

蕃を「亞加業垣皮路」直垣「域内分ち」頭領
の支配を更る風俗い
庫粮の心にて猛く
勇める蕃狄土耳其

置て守らしむ勢ひ盛んなるを乘じて歐羅巴を併呑せんとし大兵



斯坦の亜加業の南方
撫を一大部。宣恩烈
しく土膏く沃衍多
く耕し業に頼る
便なれば亜加但く

を將を他太尾里を渡り希臘と數回會戰軍利あらずして旋る

○澤耳士王

父の志を継ぎ大軍を發して海陸等しく歐羅巴を侵し又希臘の為ふ破らるて和と

東南に高山峰々と
うち浸す二流の大河
撲裁て来る亜拉の
湖ふ注ぐ所にて其
化る河の流れ多し

講ぜ其後国勢衰ふるゐ及び歴山王ゐ滅さきを本土尽く歴山王の版圖ゐ帰ゐ居魯士より二百三十年ゐ一ゐ亡ぶ其後数百年間争乱止まゐ近三百八年前ゐ至り都魯

機の属沙馬何美と初る者興り全国を統一して獨立をおし国勢を恢復を之を比耳

運送線つき。市場ゐ人を賣買の奴きゐ。ひとぞ踏すき。徒の帖木兒王の都城ゐ名ゐ美き。沙曜民

西亜新朝の祖と称せ其孫「アバス」一世位に即くに及び更に兵力を盛んにし其版圖東に印度河より西の方地中海に接し盡之を領せり然るに其嗣王皆暗弱にして国府「浩罕」の城を攻め莫斯科を印度の地の古跡とする西部の紀注に国の強風なり

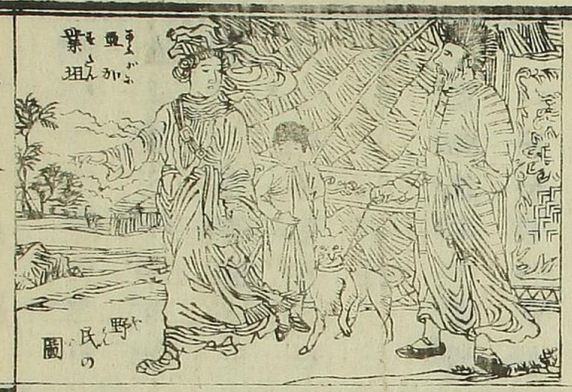
勢振はざる邦土分裂となり近來魯西亜の為に侵さる現今の形勢は至る

○亜加業坦の部内に三万七千七百八十方里にして人口五百十五万あり往時は一政府なりしも今は分れて数汗と号し互に長の内地は暴き威を振ひ十四万余の部下にして騎馬と槍の隊を持き掠むを常

が現今い分裂せ然
るとも其首たる者
猶三あり即ち「加希
利」「カンダル」「希拉」等
おり氣候暖熱く沙
漠ありと亜山の間
ふハ豊饒ある土地
多く就中加布利い
樞要の都府ふしを
入口六万あり又カ

海濱や小石踏分も
きくて原野の中り
「喜留擬須」と号くる
土地の人種「都魯機」
とて暴虐の行ひの

ンダル府い往時繁
昌の地おりしが今
い衰へて盛らぜ希



を事として仁義ふ
反く野蛮蕃ふり
亜細亞土耳其を歐
羅巴土耳其亦の
領地して。此耳西亜の

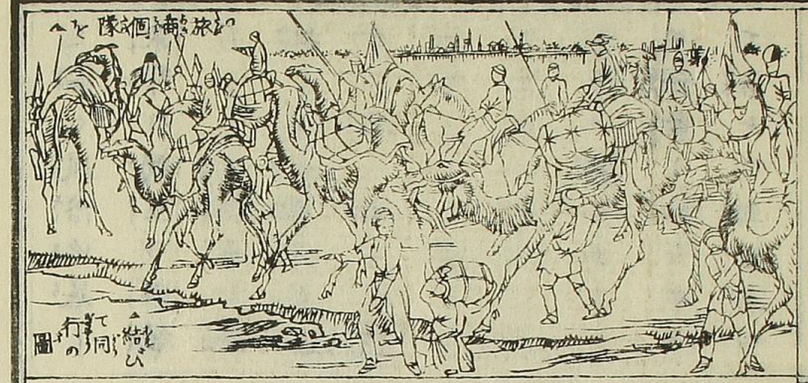
拉府い比耳西亜の境ハ近く部内西方第一の貿易場ハ人口四万五千あり

○皮路直坦の部内い二万六千八百方里ハ人口大凡四十万あり其土地原野と嶮峻ハ慶の

界して黒海及び北海海右右の海ハ南の方い亜拉突出く。南の方い亜拉比亜と水理ハ海ハ陸い対ひ境内山岳連

を多く風俗兇暴ハ東部い獨立の頭領ありて其都府を基拉と云此国比耳西亜と水一国ハ後自立して二国とある又亜加業坦と合して一国とおりしが相睦しからぎして各その主を立つ

里て。西と南い海地の多くしてい〻ど土地く。五穀産物不足ハ。四部ハ多くして大列ハ。「小亜細亜」「叙利亜」「亞爾



養尾亜米所波大迷亜も悪く。土耳其政府ふ附属せり。全國一百三十府。その中「大馬士革」とて名ある都の町續き千種百余舗店ふ。

ゐくべく繁盛ぐ好景色。

古き史も著れく。

世界に名ある地そ。

これより北の亜喇波

隊を結ぶの商個往來の地ふ。と貿易稍くふ盛んあり西部の地い野民多し

〇土耳其斯又獨立韃靼インデペンテントタルタリと號し数箇の小国ふ區分各皆君主あり其中の首立者五国あり所謂布加

利。加非利斯且。浩罕。
罷革。クンズー等く

○布加利府

地方国の南部にあり其府人口七万府中ふ用もる駱駝三千餘頭ふ及び内地の貿易甚ご多く府内奴隷を賣買もる市場あり且回教

又張ってき大府なり。
抑西洋法にて合衆
国依の教祖なる耶
蘇降誕い當國の京
利斯底尼の都なる。

盛んふ行ても三百六十の箇の寺院あり

○沙瞑良府

往時帖木児の都せし慶ふして府内繁盛人口十五万あり其後数度の兵乱を經て漸衰微し今い一万ふ過ぎず

さしも名高き耶路撒冷猶太國王の旧都なる数千年来変革ん栄枯盛衰地を尋ぬ。耶蘇の墳墓

○浩罕府

国内東部貿易第一の場所ゝして往時莫卧尔国を印度ゝ聞きたる「ペープル」王の古郷ゝり西部紀法の地方ハ昔「カルス」の強国此部内ゝ在て武威を専擅ゝせり都府

ありて寺院ゝあり。商賈時一般に国民の崇尚ゝ多く回教の霊物を宇金銀の飾りきらめく壮麗ゝ目を驚

も同名ゝ[illegible]人口一万二千ゝり

○西北亜拉湖の近傍より曾西亜の領地ゝ跨り一般ゝ沙

[illegible]ゝ多り。[illegible]

世界の七不思議の尼微の宮の庭石柏羅の大銅像。巴比倫城の夢沙の跡没斯耳府

磧の原野あり「キルキ」の地方と号け各部酋長あり風俗暴び盗賊を事とせ

○亜細亜土耳其い洲の西隅にあり狹き海を隔てゝ歐洲土耳其の本国に連り南の方亜拉比亜に跨りて亜非理加より對岸。地革里斯河の傍より堀出る古器遺物今英佛の本部なる博物館に蒐めたり

洲に接し東北い黑海に傍て魯西亜と界せ地方十一万二千四百四十方里に

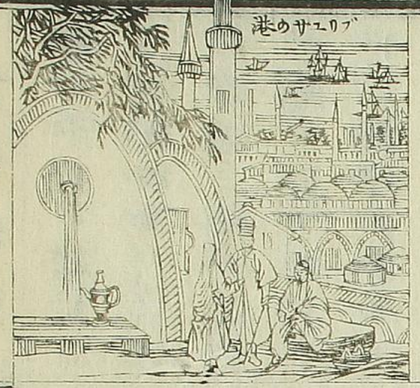
亜拉比亞國い和の方叙利亜より南びて紅海と東由洲刺底河と比耳西亜湾。南乃方亜拉比亜海西紅の海

し人口千六百万餘有り皆土耳其政府の版圖に屬し其管轄せしむ国内大小の府一百三十あり其人口土地の廣大に比較べば少かしとせべし其中士麥拿大馬士革の両府の如きは人口十万に過ぐと雖も其他は五万に及ぶ者九ケ所二万に至る者二十六ケ所に過ぎざる教法は一般に回教を奉ずと雖も人種の區別によりて

境ひ。さまでも広き國なり。赤道直下の大熱地。沙漠四方に打つづき海の岸辺に耕作をいとなむ者多し。

の為ぞ。果しても志波沙原に棲する者は陽を受け駱駝に乗ずに石炭針を的とする。

耶蘇猶太及び種々の異教を奉ずる者有り此国上古より著高き地方よりて三千年前より世ふる知らるる王国なりしが古来数々の兵乱を經て爾後四百四五十年前より土耳其に併合られ



全国其版圖に属せり其中叙利亜及び小亜細亜の両部い往時埃及の副王に属せしが三十四年

星を指へて方角を定る業に大洋を航る例に髣髴たるを土地を大略區別して「黒徳斯」二を「也門」二を「阿曼」四を「納慈」獣類多くある中に馬を世界の一物とその評判い数多里ある字えて著

前土耳其ハ属セ
○小亜細亜（エーシヤ マイノル）
い黒海と地中海と
の間ハ在る地方ハ
ーと亜那多里亜と
も名づく都府士麥
拿い亜細亜土耳其
第一の府ハーと貿
易繁盛の港あり其
他「アイデ」府「ス

き亜丁」い紅海咽喉の。
○「あで」
碇泊場ハ英領ハ。
ていはく だん
属セ紅花の港あり。
もんこう こうこう
「阿曼」の都府や「ヨス」本斯
甲度ハ對セ東
「ハ」印。

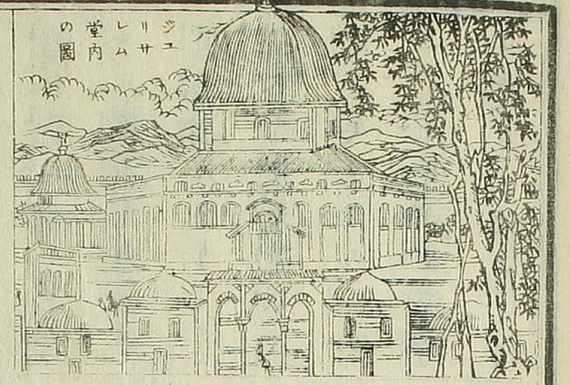
タリー」「ブリユセ」府
「シノーピ」の港あり
共ハ繁花の地あり
○叙利亜の地方い
地中海の濱辺より
亜拉比亜ハ跨り小
亜細亜と埃及との
間ハある南北ハ長
き土地と云ハ海岸
の地方と不利斯底

南ハ。海辺ハ在りて
地球中。極熱帯乃
第一地。岩石四方を
うち囲ミ。樹木いさ
らうつ。ハ。ぎて。秋

尼と云ふ此地迦南又の神国と號し猶太以色列等の古名あり土人種々の教法を講ぜるものあり

○猶太教
○回教
○耶蘇教
等の諸宗あり

立山の雪揺振て地寒温儀されば四府ふ仏ふして俗俗地獄と称とのや四部の地方納熟美野積



ジユリサレム堂内の園

○亜尓美尼亜ハ魯西亜の甲告俗地方ゐ接しヒ山脈連う

原山嶽の間ふ草木生育つ土地い亜拉比亜古来より伝へ風俗の変る理也

奴の府下の人今う

東南の方比耳西亜ハ接もるの地方ハ更ハ高山多し其都府を葉西倫と云人口三萬四千内地の貿易盛んあり

○米所波大逆亜ハ亜ハ美尼亜の山地より比耳比亜海灣ヲ達もる地ハし

崇もとる回教の基ひを開くく雲地くく。

舊跡ハ多く山まれます

支那海及び印度

上古種々の邦国ありて世界繁盛の地方ありと云ふ

因て云此地ハ二ツの大河あり一を由非剌底と云ひ一を地革里斯と云ふ共ハ東南ハ流れ終ハ相合して一ツハあり

海澳大利亞中間ハ。

数も知れぬ多島嶼を總て称して東印度諸島と呼つ又是を亜東諸嶋と号す

比耳西亜湾に注ぐ太古人民初めて繁殖たるハ此河辺なりと云ふ其後大洪水ありて人民多くハ亡滅て唯諾威の親属纔に免るゝ事を得て再び人種蕃殖て現今になり

しまそれが中なる首嶋。大略和蘭に附属して。全く領地と称ふ者。総計九万八千と三百八十方里

来りしと云ふ蓋し大洪水の有しハ大略四千二三百年前にして諾亜の親属神の告により前に大洪水のあると知り舟を造り貨財を載て則ち今の亜爾美尼亜の山地

あり。人口二千万人に。僅足ずと聞へたり。土地赤道に近く。気候炎熱。草木の花実ハ四時に絶ず也

らば。徒衆も支那の海西き。呂宋數百乃至角を。合せ名づけて飛里比弼と。稱する事味い西班

ふ止せもとうと成傳ふ

古跡

○巴比倫城

大凡四千年前の遺跡ヒ存せり

○尼々微城

三千八百七十余年前の古都ゆえを現今ゆ其近辺

牙第二世王の名ゆ

拉高ある王ゆ領分の故ゆえ。都府の馬尼刺い西の字岸を放まて蘇禄諸島

ある上中より種々の古物を堀出せり

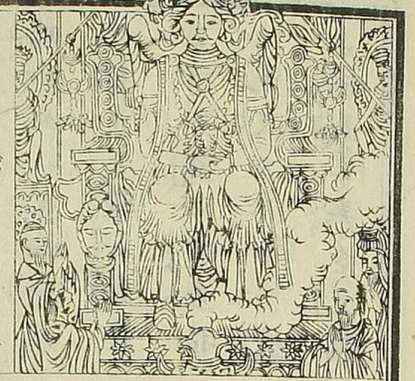
○太陽廟

太古尼々微の城中に有り今其瓦礫而已を存せり

○巴比倫金像

僅に築石の古跡を存せり

瓜哇は諸島の先達にて人口多く土地ゆたかの阿蘭陀領の一箇にして首府を名づけて伯帶庇亞



○亜拉比亜は北叙利亜に連り東は由非剌底河及び比耳西亜灣に境し南は亜拉比亜海西は紅

鎮撫衛府諸支局。

諸院学校その他。

市街高社鋪店等。

彩を並べて殷賑なり。十條里にして府

海ハ境ひたる大か
る半嶋国ありと雖
全く赤道の熱地ハ
しを沙漠連り耕作
もべきの地ハし大
略歐羅巴洲四分の
一有りと雖人口六
百万ハ過ぎ皆亜拉
比亜人ハしを一般
ハ回教を奉ぜ又猶

あり。勃意天卒留
倶ち鮮産の業事
を厨ひ下屋敷の事
千緑の業を事とす。
百姓常に煙漫と。

太教を奉ぜる者多
し海岸の地方ハい
間々豊饒の地有り
且繁盛の都府数多
ありと雖も其内地
い沙原ばかりある
故此地を旅行する
者駱駝ハ駕て隊を
結び且道路の標的
ハ磁石の針をふり

緑奴脚ハ拔ぬ面白き。
官道四達馬車肩
輿て。徒来自主の
「すぐ」
三寶城士里莫「ぜ」萬
「せん」
丹井喪汶「がん」ぶ。各府

ふり星を指へて方角と定めて行くと大洋を航るが如しと云り土地の區別種々の名称あり

○黒徳斯（ヘドヤス）土耳其領　其國の西部紅海の濱辺を云ふ

○也門　酋長　西南の隅紅海の

各港貿易の盛りを競ふ禦門答臘（スモタラ）世みな巫来由の半島ふ。

きし向ひ合る大島や人のこゝ後も荒浪の。

入口の地方を云

○阿曼　頭領　東南の地方を云

○納熱　酋長　中央の内地を云

○ハドラモート　南部の海岸を云

○西奈山　九百丈余　蘇士と「アカバ」の海灣の中間ふ有

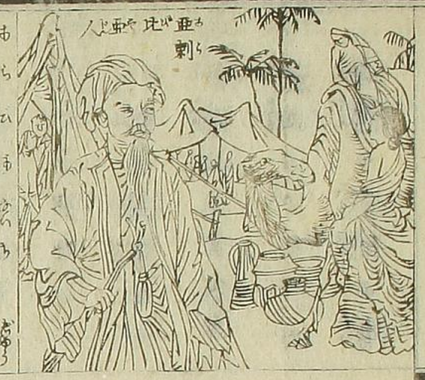
富せくいうを我ひよ。

紅海（ヘドヤス）の和蘭領ハ

噹（ジャワ）花古魯（ボルネオ）巴陵（ボルネオ）傍

そ他の諸島を結

産を副て衛まぶ



亜拉比亜内地の住民い平常居処を定めず水草を逐て他處ふ移り住帳幕を張て其内ふ眠り坐

獨立の。土人ハ交る蛮甲蛮。支那と印度の海洋ふ越く船の所後あり。所陸の如ある波濤ふ羅い世界ふ奇双の大陸と。

食せり人氣あしく盗賊と為者多し斯る廣大ある沙原ふ生活ふる人民の時用缺く可からざる物い駱駝ふして一切七の物尽く此獸ふ駕しを水と草との ある地を索めて四方ふ住居を轉ぜと

地理書ふ中小等ふ者ハ土人風俗暴しく。弁化ふ遠き裸蠻西の岸より東南ふ和蘭ふ至ては其他ふ獨

云真他此地の馬い世界無双ふして尤有名あり

○此國い回教基源の地ふして千二百餘年前開祖摩哈麥黒徳斯の首府麥加の地ふ生を麥地拿の地ふ終りしより回教の門徒い靈場立古候英ふの支配を受る者もあり。四地ハ重て山つゞき。深き林のうち猛獣毒蛇の巣窟ふて。人の通い無

の第一として巡拝もる者必ず此地ふ來る

○東印度諸嶋い大緊赤道下ふ位して

の〳〵土地の西南西ふ。大ふ四府の發榮ハ人雑る美ふ業土海峡隔し嶋〳〵ハ西里伯る歌古徒ふ嶋小聚他徒爲池

炎熱あり草木繁成し産物多し大略和蘭の管轄に属し本國より爪哇に鎮臺と置きて之を支配せり然も其北部の諸島呂宋の如き西班牙の所領に属し又葡萄牙領或い土候の領地あり

百尋。さても高嶺哉。頂のぼりて遠くかゞむきて。海に面す。数里。新をやどさでのかくなる。

010190534010